

「第 27 回横浜市長杯 小中学生アイスホッケー選手権大会」
開催要項

1. 名 称 : 「第 27 回横浜市長杯 小中学生アイスホッケー選手権大会」
2. 主 催 : 神奈川県アイスホッケー連盟
3. 主 管 : 普及委員会
4. 後 援 : 横浜市民局 横浜市体育協会
5. 会 期 : 2016 年 10 月 22 日 (土) ~10 月 23 日 (日)
6. 会 場 : 横浜銀行アイスアリーナ
7. 参加資格 : 神奈川県アイスホッケー連盟に登録された小中学生チームに所属する選手
および役員
8. 参加チーム : 【小学生 (低学年) 4 チーム】
新横浜ジュニア、ヨコハマスターズ A・B (リトルペンギンズ)
合同チーム (ブルーベアーズ・アイリズ)
【小学生 (高学年) 4 チーム】
新横浜ジュニア、ヨコハマスターズ、リトルペンギンズ、
合同チーム (ブルーベアーズ・アイリズ)
【中学生 4 チーム】
新横浜ジュニア、ヨコハマスターズ、リトルペンギンズ、
合同チーム (ブルーベアーズ・アイリズ)
9. 参加申込 : チーム参加を 2016 年 9 月 30 日までに jlc11@kihf.net 宛に申込み、
選手登録は 2016 年 10 月 7 日までに、所定の書式において申込みを
完了させる事。
10. 参加費 : クラス毎に別途設定した参加費を下記口座へ 10 月 15 日までに振り込むこと。
なお期日までに入金確認の取れないチームは出場を認めない

振込先 横浜銀行 本店営業部 普通口座 6097936
神奈川県アイスホッケー連盟 会計 長谷川 宜彦
11. 競技規則 : 下記ローカル・ルールを除いて、原則 IIHF 国際競技規則に基づく
補助規則 (ローカル・ルール) U9 クロスアイスの試合方法は別に定める。
 - a. 出場最少人数は 7 名とし、ユニフォームを着ないベンチ役員 1 名とする。
(人数が満たない場合には没収試合とし、スコアは 0 - 1 5 とする)
 - b. プレーヤーは、全員フルフェイスマスク、マウスガード、及びネックガードを完全着用
する。
 - c. ゴールキーパーはネックガードを着用し、パック及びスティックが貫通しないマスクを
着用する。
 - d. ヘルメット、及びパンツの色はチームで統一する。(GK のヘルメットは除く)
 - e. 合同チームでユニフォームが異なる場合には、ベストを着用する。
 - f. 髪はヘルメットの中に収めるか、ひとつにまとめてユニフォームの中に収めること。
お守り等は、必ずユニフォーム (パンツ) の中に入れ、外に出さないようにする。
 - g. ベンチは、トーナメント表の左側のチームが本部席より向って左側とし仮のホームとす
る。
 - h. ホームの決定は、試合前のパックスで決定する。(仮ホームが表裏を選択する)

U9 クロスアイスの試合方法

- ① 4on4 の第3ピリオドを行う。
 - ② 各ピリオド15分間のロス込みランニングタイムで行う。
 - ③ ボディーチェック、オフサイド、アイシングはない。
 - ④ 選手交代は1分間毎に(ブザー音)登録選手全員を試合前登録の順番通りに出場させる。
 - ⑤ ゴールキーパーは参加資格者とする。
 - ⑥ ペナルティが出た場合、ペナルティショットを与える。
その際、ペナルティを受けた選手がペナルティショットを行う。
 - ⑦ 試合終了時同点の場合は、SV方式による両チーム1名ずつのGWSで勝敗を決定する。
 - ⑧ レフェリー 1試合レフェリー1人制
 - ⑨ ベンチ 対戦表の左側チームが本部席側より見て奥側、右側チームが本部席側に入る。
 - ⑩ ピリオド間のサイドチェンジはしない。
 - ⑪ 整氷車入り口側をAリンク、奥側をBリンクとする。
 - ⑫ オフィシャルシートを作成しない。
 - ⑬ エンドスポットのみマーキングする。(その他は不要)
 - ⑭ オフィシャル当番
各チームから2名ずつ選出し、ゴールジャッジ4名、アナウンス1名、計時&ブザー1名、得点掲示2名の責務に当たる。
12. 競技時間 : 【高学年・中学生順位決定戦・決勝戦】
練習5分、各ピリオド正規15分、インターバル3分で行う。
10点差が開いた時は以後ロス込みとする。
- 【低学年を除くその他の試合】
練習5分、各ピリオドロス込み20分、インターバル3分で行う。
- ペナルティータイムは正規のものとする。タイムアウトは取れない。
ただし、貸切時間内に試合が終了しない事が予想される場合は、スーパーバイザーの判断により第3ピリオドの試合時間をロス込みにする場合がある。
13. 順位 : トーナメント戦方式による。敗者も順位決定戦を行う。
- ① 決勝戦については、第3ピリオドを終了して同点の場合は、4on4方式の5分間の延長(サドンビクトリー方式)を行う。
それでも決しない場合は1名ずつのゲームウイニングショットを行う。
 - ② 上記以外の試合は、第3ピリオド終了し同点の場合は、3名ずつのゲームウイニングショットを行う。それでも決しない場合は1名ずつのサドンビクトリー方式のゲームウイニングショットを行う。
14. オフィシャル : (大会毎の罰則規定)
オフィシャル当番チームは、オフィシャルスコアキーピングとルールに精通した者でその任に当たり、責任持って終了させる。
オフィシャル当番はスケート靴持参(6名以上)で試合開始30分前に集合し、準備を開始すること。
オフィシャル当番が遅刻・欠席・人数不足等によりその任務を履行できなかったと大会役員により判断された場合、審議委員会において罰則を科す。
罰則の範囲は不履行により再試合となった場合、その費用負担から無期限の出場停止までとする。また、試合終了後10分以内にゲームシートを完成させること。
15. スーパーバイザー : (大会毎のSV規定)
- a. ゲームを円滑に運営することを目的として、各ゲームにつき1名ずつ、スーパーバイザーを置く。
 - b. スーパーバイザーは、ゲームの運営に関し、会場関係者・レフェリー・オフィシャルと協調あるいは指示を出しその任に当たる。

c. スーパーバイザーは、オフィシャルチームから1名派遣する。

16. 試合中の傷害 :

- a. 各チームで必ずスポーツ安全保険等傷害保険に加入すること。
- b. 試合中に傷害を負った選手は所定の用紙を持ってスーパーバイザーに届け出ること。
- c. 傷害に関するデータは医事委員会に報告され、用具やルール改善の基本資料として活用される。
- d. 選手・役員等の移動及び本大会における事故、負傷、盗難等については、本連盟は一切の責任を負わない。各チームが責任をもって予め対処すること。

17. その他 : 要綱に記載されていない不測の事態が発生した場合は、普及委員会にて別途協議をする。

18. 懲戒委員会 : 委員長 : 中嶋 寛

委員 : 金子精司、柏木 満、吉田見登留、宮本淳平

- e. 懲戒委員会は、理事長、副理事長、競技委員長、レフェリー委員長、普及担当理事1名の5名とする。